

1. 「金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習」の実施結果

- 昨年10月に実施した「金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習」について、主要行の演習結果を総括すると、総じて、サイバー攻撃への迅速かつ正確な対応を行うとともに、経営層・関係部署、ITベンダ・当局等との内外連携も適切に実施していた。提出された行動記録の記載内容も充実しており、日頃よりサイバー攻撃への対応等の検討を進めていることが伺えた。また、他業態では見落としがちな、サイバー攻撃予告を受けた際の積極的な情報収集や、改ざんを受けたホームページの復旧にあたっての再度の攻撃を想定した対処等にも対応できていた。
- 演習に参加していない金融機関の取組みの参考とするため、今般の演習を通じて把握した傾向・共通課題等については、4月を目途に改めて、協会を通じて業態全体に還元させて頂く予定。
- 当庁は継続的に演習を実施していくこととしており、今回の演習に参加した金融機関からのご意見等も踏まえ、より実効性の高い演習方法・内容等について検討してまいりたい。

2. 機動的なリスク管理に関するモニタリング

- 海外業務のウェイトが高い大手金融機関においては、市場や経済状況の変化に応じ、リスクのヘッジやエクスポージャーの調整をタイムリーに実行できるような枠組みの整備が課題となっている。
- 過去の例を見ても、潮流の変わり目に実際に迅速に行動できるか否かが重要。そうした機動的な意思決定・行動ができるガバナンスの構築に向けて、引き続き対話を進めたい。

3. ガバナンスに関するモニタリング

- 大手金融機関において、社外取締役の意見を経営に取り入れ事業戦略の検討方法を見直している事例など、社外取締役の意見をガバナンスの実質的な改善に繋げようとする動きがみられている。
- こうした動きも踏まえ、引き続き、社外取締役が取締役会の議案の課題・論点を明確に理解しうる材料・機会が十分に提供され、重要議案について踏み込んだ議論が行われているか、また、社外取締役の問題意識が日々の業務運営に反映されているかなど、実態面に焦点を当てつつ真に実効性のあるガバナンスの構築に向けた双方向の対話を継続していきたい。

(以上)